

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00914

研究課題名（和文）日常場面と特定場面の日本語会話コーパスの構築と言語・相互行為研究の新展開

研究課題名（英文）Construction of corpora of Japanese conversations in everyday and institutional settings and new directions in language and interaction studies

研究代表者

傳 康晴（Den, Yasuharu）

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：70291458

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,690,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、教授場面などを含む特定場面の日本語会話コーパスを構築し、日常場面コーパスと統合的に利用することで、言語・相互行為研究に新展開をもたらした。とくに、以下のような研究テーマに関する新規な知見を得た：マルチモーダルな教授活動・グループ学習・知覚の相互行為論・援助の申し出。これらの知見は、今後の言語・相互行為研究の新たな研究課題の創出に資することができる。さらに、これらの研究を支える研究基盤として、談話行為アノテーション基準を策定し、日常場面コーパスに対して施行・公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 本研究の特定場面コーパスを広く研究利用に供することにより、我々の日常的な活動に関する言語・相互行為研究の包括的な理解に資することができる。
2. 本研究の成果は、国際公開シンポジウムや国際会議のパネルセッションにおいて、世界的に著名な研究者たちと共同で発信し、世界最先端の研究の中に位置付けた。
3. 本研究が提供する研究資源・成果は、人文社会科学・認知科学・知能情報学などの分野の発展にとって多大なる貢献をする。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we developed corpora of Japanese conversations in institutional settings including instruction-learning situation, and utilized them together with a corpus of everyday conversation to bring language and interaction studies in new directions. In particular, we made new findings on such topics as multimodal instruction-learning activity, group learning, interactional approach to perception, recruitment for assistance. These findings can create new paradigm in future studies of language and interaction. Furthermore, as fundamentals of these research, we developed an annotation scheme for dialog acts and applied it to the Corpus of Everyday Japanese Conversation, which is included in its published version.

研究分野：コーパス言語学・相互行為分析・フィールド認知科学

キーワード：コーパス言語学 相互行為言語学 研究資源 基盤整備 相互利用

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

21世紀初頭のビッグデータ革命の影響のもと、言語研究にも「データの時代」が到来しつつあり、書き言葉では、幅広いジャンルの文章をバランスよく収録した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』が構築され、現代日本語の実態を巡る様々な研究が展開されていた。しかし、我々の言語生活の中心をなす、日常で自然に起こる会話行動については相互利用できる日本語コーパスはほとんど存在せず、個々の研究者が自分で収集した限られた量・範囲のデータに基づいた研究しかできない限界があった。日常の会話場面は多様であり、これらの会話データを共有・相互利用する基盤を整備し、様々な会話場面を多角的・総合的に分析することは、言語学分野の会話研究のみならず、コミュニケーションに関わる人文社会科学・認知科学・知能情報学等の分野の発展にとって喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の3つを通じて、日本人の会話行動に関する言語・相互行為研究に新展開をもたらすことである。

- (1) 本研究メンバーが研究対象としている特定場面(教授・接客・公的場面等)の会話コーパスを新たに構築し、日常場面コーパスと統合した大規模日本語会話コーパスを構築する。
- (2) 多様な場面の会話コーパスの相互利用により、メンバー達の研究テーマを有機的に連動し、会話行動を多角的・総合的に分析する。
- (3) 以上を支える研究基盤(研究用付加情報やコーパス共有・相互利用環境等)を整備し、構築した大規模日本語会話コーパスを公開する。

3. 研究の方法

研究の全体像を右図に示す。

《研究課題 1-1: 特定場面の会話コーパスの構築》(A1~A3 班)

各メンバーが研究対象としている特定場面(教授・接客・公的場面等)の会話コーパスを構築

《研究課題 1-2: 特定場面コーパスと日常場面コーパスの統合》(B 班)

(本研究メンバー数名を含む)国立国語研究所共同研究で開発中の日常場面コーパスと研究課題 1-1 の特定場面コーパスを統合し、大規模日本語会話コーパスを構築

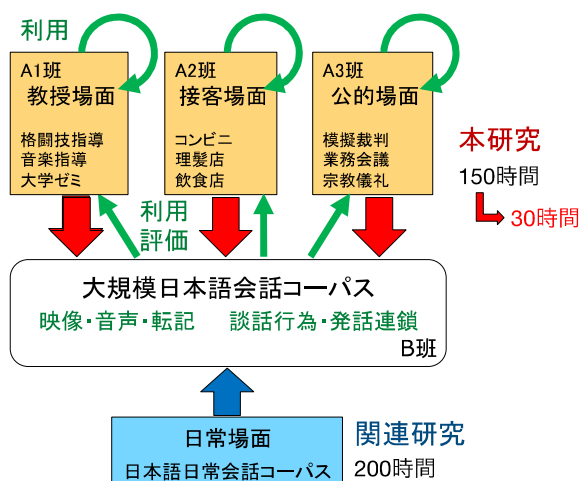
新型コロナ蔓延など諸事情により、当初予定より、規模を縮小

《研究課題 2: コーパス相互利用による会話行動の多角的・総合的分析》(A1~A3 班)

大規模会話コーパスの相互利用に基づき、研究テーマの有機的連動による会話研究を展開

《研究課題 3: コーパス共有・相互利用の基盤整備》(B 班)

日常場面コーパスの収録・公開ガイドライン、転記・アノテーション基準を援用・策定し、研究課題 1 の大規模日本語会話コーパスを整備・公開する。



4. 研究成果

(1) 研究課題 1

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』に準拠したガイドラインに基づき、以下のような場面の会話データ計 230 時間を収録した：教授場面(武道指導・音楽練習・授業・ゼミなど)、接客場面(整骨院など)、公的場面(家庭内儀礼・会議会合など)

のうち、以下の教授場面のデータ(映像・音声・転記データ)計 30 時間強を整備し、公開のための準備を整えた(2022 年度中に公開予定)

武道指導	1.2 時間
ギター練習	7.7 時間
三味線練習	2.3 時間
ピアノ・チェロ練習	5.8 時間
英会話練習	4.2 時間
ゼミ	2.0 時間
読書会	6.3 時間
グループワーク	2.7 時間

日常場面コーパスとして『日本語日常会話コーパス』(200 時間)を 2022 年 3 月末に公

開した。

## (2) 研究課題 2

以下の 3 つのサブグループに分かれてデータセッションを積み重ね、それぞれの場面に特徴的な相互行為上の実践を記述した：武道・音楽・ゼミ

のサブグループ研究およびその他の個人研究により、以下のような研究テーマについて新規な知見を得て、雑誌論文・国際会議などで成果を発信した：マルチモーダルな教授活動・グループ学習・学習者への評価・知覚の相互行為論・認識的スタンス・協同作業・援助の申し出・行為指示・活動の中断と再開・発話デザイン・メタファー表現・指示表現・反応の追求・参与構造・身体配置・社会的役割・環境認知

以上の成果を発信する場として、公開シンポジウム「ことば・認知・インタラクション」を毎年度、主催した。2018 年度には、文法と身体に関する相互行為研究で著名な Leelo Keevallik 氏を招聘し、国際シンポジウムとして開催した。

これらの研究と関連する以下の国際ワークショップを「言語資源と評価国際会議 (LREC 2018)」で主催した：“Language and body in real life (LB-IRL2018) and Multimodal corpora (MMC2018) Joint Workshop”

これらの研究と関連する以下の 3 件のパネルセッションを国際語用論学会 (IPrA 2019, 2021) で主催した：“Pragmatics of emergent participation framework: Multimodal analysis of everyday life interaction”, “Interaction in *Budo*: Multimodal analysis of Japanese martial arts practices”, “Interactions in the process of instructing and learning *Geido*: Multimodal analysis of Japanese traditional and martial arts”

## (3) 研究課題 3

研究課題 1・2 を支える研究基盤として、以下の転記・アノテーション基準を策定した：談話行為 (発話機能・連鎖構造) アノテーション・相互行為研究に適した詳細化転記の転記・アノテーションを『日本語日常会話コーパス』コアデータ (20 時間) に対して施行し、公開した。

## (4) 得られた成果の国内外における位置付けとインパクト

本研究に着手した 2017 年度前後から特定場面に関する言語・相互行為研究は国内外で急速に発展した。本研究ととくに関連が深い研究動向として、Leelo Keevallik や Joonas Råman による身体技法の教授場面における一連の研究がある [1-6]。本研究では、上記 (2) の公開シンポジウムや (2) のパネルセッションにおいて、これらの研究者たちと交流の機会を持ち、本研究の成果を世界最先端の研究動向の中に位置付けるとともに、この分野の今後の発展を先導する手応えを得た。

- [1] Keevallik, L. (2020) Grammatical coordination of embodied action: The Estonian ja ‘and’ as a temporal organizer of Pilates moves. In *Emergent syntax for conversation: Clausal patterns and the organization of action* (Maschler, Y., Doehler, S. P., Lindström, J., and Keevallik, L. eds.), Amsterdam: John Benjamins, 221–244.
- [2] Keevallik, L. (2020) Linguistic structures emerging in the synchronization of a Pilates class. In *Mobilizing others: Grammar and lexis within larger activities* (Taleghani-Nikazm, C., Betz, E., and Golato, P. eds.), Amsterdam: John Benjamins, 147-173.
- [3] Keevallik, L. (2021) Vocalizations in dance classes teach body knowledge. *Linguistics Vanguard*, 7 (s4), 20200098.
- [4] Råman, J. (2018) The organization of transitions between observing and teaching in the Budo class. *Forum: Qualitative Social Research*, 19 (1), Art. 5.
- [5] Råman, J. (2019) Budo demonstrations as shared accomplishments: The modalities of guiding in the joint teaching of physical skills. *Journal of Pragmatics*, 150, 17-38.
- [6] Råman, J., and Haddington P. (2018) Demonstrations in sports training: Communicating a technique through parsing and the return-practice in the Budo class. *Multimodal Communication*, 7 (2), 20180001.

## (5) 今後の展望

『日本語日常会話コーパス』に加え、本研究の特定場面コーパスを広く研究利用に供することにより、我々の日常的な活動に関する言語・相互行為研究の包括的な理解とともに、新たな研究課題の創出に資することができる。

本研究のサブグループの一部 (武道グループ) は、独立した後継課題として科研費研究 (課題番号 21K11500) を継続しており、本研究の成果を発展させる具体的な事例として展開している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計66件（うち査読付論文 38件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 横森大輔	4. 巻 5
2. 論文標題 英文法の学習経験の共有を示唆する認識的態度：授業内グループワークの会話分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都大学国際高等教育院紀要	6. 最初と最後の頁 135-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tomoko Endo	4. 巻 13
2. 論文標題 Multimodal conflict resolution: A conversation analytic study of a group work activity in English class	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Komaba Journal of English Education	6. 最初と最後の頁 27-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tomoko Endo	4. 巻 -
2. 論文標題 Students expressing difficulties in group activities: Conversation analysis of a college English learning activity	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 4th JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Satomi Kuroshima	4. 巻 -
2. 論文標題 Working toward group accomplishment through a proposal sequence: Conversation analysis of a college English learning activity	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 4th JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤智子	4. 巻 1
2. 論文標題 家庭内における遊びと感情の表出：遊びの展開と対立のマネジメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エスノメソドロジー 住まいの中の小さな社会秩序 家庭における活動と学び：身体・ことば・モノを通じた対話の観察から（是永論・富田晃夫編）	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 -
2. 論文標題 個体識別と匿名性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 出会いと別れ：「あいさつ」をめぐる相互行為論（木村大治・花村俊吉編）	6. 最初と最後の頁 167-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Kuroshima and Jonas Ivarsson	4. 巻 4 (3)
2. 論文標題 Toward a praxeological account of performing surgery: Overcoming methodological and technical constraints	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Interaction. Video-Based Studies of Human Sociality	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7146/si.v4i3.128146	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 名塩征史	4. 巻 3
2. 論文標題 会話への途中参加を巡る動機付けと許容に関する認知語用論的考察 理容室でのコミュニケーションを対象とした事例分析をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 動的語用論の構築へ向けて（田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝編）	6. 最初と最後の頁 162-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伝康晴	4. 巻 3
2. 論文標題 身体的実演を伴う教授場面の相互行為分析 - アドレス性に注目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 動的語用論の構築へ向けて (田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝編)	6. 最初と最後の頁 140-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Kuroshima, Stephanie Hyeri Kim, Kaoru Hayano, Mary Shin Kim and Seung-Hee Lee	4. 巻 -
2. 論文標題 When OKAY is repeated: Closing the talk so far in Korean and Japanese conversations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 OKAY Across Languages: Toward a comparative approach to its use in talk-in-interaction (Emma Betz, Arnulf Deppermann, Lorenza Mondada, and Marja-Leena Sorjonen, eds.)	6. 最初と最後の頁 235-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 黒嶋智美	4. 巻 31
2. 論文標題 医療記録を「読むこと」と「見ること」の会話分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本保健医療社会学会論集	6. 最初と最後の頁 67-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本郁代	4. 巻 -
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングにおける大学生の話し合いの特徴 意見や提案の連鎖の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 これからの話し合いを考えよう (村田和代編)	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 -
2. 論文標題 維持されるものとしての発話の権利：クライアントの意向を尊重もしくは利用する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発話の権利（定延利行編）	6. 最初と最後の頁 165-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名塩征史	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 身体的技術の指導・学習過程における相互行為 - 年少者向け空手教室での「相手を意識した」経験の共有	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 100-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19024/jajls.23.1_100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 榎本美香・伝康晴	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 共同体「心体知」の学習 共同参加から学ぶ成員の心がけ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19024/jajls.23.1_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Kuroshima	4. 巻 3 (1)
2. 論文標題 Therapist and patient accountability through tactility and sensation in medical massage sessions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Interaction. Video-Based Studies of Human Sociality	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7146/si.v3i1.120251	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小磯花絵	4. 巻 -
2. 論文標題 日常会話コーパスを活用した丁寧さ・対人モダリティの生起要因とその実態の解明	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 データに基づく日本語のモダリティ研究 (田窪行則・野田尚史 (編))	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伝 康晴	4. 巻 21
2. 論文標題 伝達意図とアドレス性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 語用論研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉	4. 巻 18
2. 論文標題 『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00002540	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 1
2. 論文標題 「他者の発話を理解すること」の生態学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 動的語用論の構築に向けて (田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝 (編))	6. 最初と最後の頁 168-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Katsuya Takanashi and Yasuharu Den	4. 巻 37
2. 論文標題 Field interaction analysis: A second-person viewpoint approach to Maai	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New Generation Computing	6. 最初と最後の頁 263-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-019-00062-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 -
2. 論文標題 発散型ワークショップでの発言に伴う指さし - 多重の行為から見た活動への志向 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指さしと相互行為 (安井永子・杉浦秀行・高梨克也 (編))	6. 最初と最後の頁 191-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤智子・高田明	4. 巻 -
2. 論文標題 家庭内の共同活動における子どもの指さしと養育者の反応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指さしと相互行為 (安井永子・杉浦秀行・高梨克也 (編))	6. 最初と最後の頁 161-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本郁代	4. 巻 -
2. 論文標題 受け手に「直接経験」として聞くことを要請すること - 過去の出来事を受け手に「帰属」させる指さし -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指さしと相互行為 (安井永子・杉浦秀行・高梨克也 (編))	6. 最初と最後の頁 63-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横森大輔	4. 巻 -
2. 論文標題 グループの外の声を聞く：大学英語授業内グループワークの相互行為分析から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 聞き手行動のコミュニケーション学（村田和代編）	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Endo, Anna Vatanen, and Daisuke Yokomori	4. 巻 21 (1)
2. 論文標題 Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 160-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 小磯花絵・伝康晴	4. 巻 15
2. 論文標題 『日本語日常会話コーパス』データ公開方針 法的・倫理的な観点からの検討を踏まえて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 75-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00001597	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satomi Kuroshima	4. 巻 -
2. 論文標題 Evidencing the experience of seeing: A case of medical reasoning in surgical operations	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Co-operative Engagements in Intertwined Semiosis: Essays in Honour of Charles Goodwin	6. 最初と最後の頁 208-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高梨克也	4. 巻 9
2. 論文標題 多職種チームにおける協働のための工夫と困難 日本科学未来館展示制作チームのフィールド調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 質的心理学フォーラム	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤智子・横森大輔・林誠	4. 巻 20 (1)
2. 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」：認識的スタンス標識の相互行為上の働き	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 110-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Endo	4. 巻 123
2. 論文標題 The Japanese change-of-state tokens a and aa in responsive units	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Pragmatics	6. 最初と最後の頁 151-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2017.06.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 居關友里子	4. 巻 13
2. 論文標題 制度的場面における会話の終結に関する一考察 実習反省会の観察から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001371	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計170件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 38件）

1. 発表者名 伝康晴
2. 発表標題 文化の伝承を支える他者との向き合い方
3. 学会等名 第14回共創学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森本郁代
2. 発表標題 裁判官と裁判員をチームにする実践:自己指示表現「私たち/われわれ」の分析から
3. 学会等名 法と心理学会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Endo
2. 発表標題 De-ritualization as management of social roles: Multimodal analysis of ritual language and bodily behavior
3. 学会等名 17th International Pragmatics Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ikuyo Morimoto
2. 発表標題 The multimodal ritual practices used for organizing transitions between activities in a Budo class: an analysis of a Taïdo lesson
3. 学会等名 17th International Pragmatics Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuharu Den
2. 発表標題 Instruction by installment: A recurrent format used in teaching Jiu-jitsu techniques
3. 学会等名 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seiji Nashio
2. 発表標題 The application of standard melody patterns to instruction in Shamisen lessons: Findings from multimodal analysis of Shamisen practice through simultaneous imitation
3. 学会等名 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森本郁代
2. 発表標題 学習者の相互行為能力-会話分析からのアプローチ
3. 学会等名 第二言語習得研究会第31回全国大会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenta Kishimoto and Ikuyo Morimoto
2. 発表標題 Embodied ways of intervening into and instructing pairs of trainees: A multimodal analysis of Taïdo lessons
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ikuyo Morimoto
2. 発表標題 Recruiting assistance in teamwork: An analysis of embodied coordination among service providers
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Endo
2. 発表標題 Membership and participation: Child as a resource for interaction between in-laws in Japanese casual conversation
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Endo
2. 発表標題 Bodily behavior as constructional meaning: The case of benefactive construction in Japanese family interaction
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seiji Nashio
2. 発表標題 Instructive utterances contributing to multimodal instruction in child-oriented karate lessons: Variety of utterances intended to correct the bodily motions
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuharu Den
2. 発表標題 Instructing with demonstrating bodily interaction: Multimodal resources used in instruction of Jiu-jitsu techniques
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Yokomori
2. 発表標題 When to withhold a reference to a head noun: A study of turn-final use of the complementizer <i>toiu/tteyuu</i> in Japanese conversation
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 多職種連携における安心と信頼のための実践知の解明
3. 学会等名 2019年度科学基礎論学会シンポジウム「安心と信頼の科学と哲学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伝康晴
2. 発表標題 伝達意図とアドレス性
3. 学会等名 日本語用論学会第21回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Endo
2. 発表標題 Ancestor or grandpa: Referential forms in Japanese household shinto ritual
3. 学会等名 Referentiality Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hanae Koiso
2. 発表標題 Construction of the Corpus of Everyday Japanese Conversation: An interim report
3. 学会等名 11th International Conference on Language Resources and Evaluation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Endo
2. 発表標題 Infant 's pointing and participation framework
3. 学会等名 1st seminar on the development of intersubjective recognition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高梨克也
2. 発表標題 多職種チームにおける協働のための工夫と困難 日本科学未来館展示制作チームのフィールド調査から
3. 学会等名 日本質的心理学会第14回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年



〔図書〕 計5件

1. 著者名 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立国語研究所	5. 総ページ数 115
3. 書名 『日本語日常会話コース』設計・構築・特徴	

1. 著者名 諏訪正樹・伝康晴・坂井田瑠衣・高梨克也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 272
3. 書名 「間合い」とは何か：二人称の身体論	

1. 著者名 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立国語研究所	5. 総ページ数 58
3. 書名 『日本語日常会話コース』モニター公開版 コーパスの設計と特徴（プロジェクト報告書3）	

1. 著者名 平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 300
3. 書名 会話分析の広がり	

1. 著者名 高梨克也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 多職種チームで展示をつくる：日本科学未来館「アナグラのうた」ができるまで	

〔産業財産権〕

〔その他〕

特定場面プロジェクト <a href="http://www.jdri.org/tokutei">http://www.jdri.org/tokutei</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小磯 花絵 (Koiso Hanae) (30312200)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・教授  (62618)	
研究分担者	森本 郁代 (Morimoto Ikuyo) (40434881)	関西学院大学・法学部・教授  (34504)	
研究分担者	高梨 克也 (Takanashi Katsuya) (30423049)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授  (24201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横森 大輔 (Yokomori Daisuke) (90723990)	京都大学・国際高等教育院・准教授  (14301)	
研究分担者	遠藤 智子 (Endo Tomoko) (40724422)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  (12601)	
研究分担者	名塩 征史 (Nashio Seiji) (00466426)	広島大学・森戸国際高等教育学院・講師  (15401)	
研究分担者	黒嶋 智美 (Kuroshima Satomi) (50714002)	玉川大学・ELFセンター・助教  (32639)	
研究分担者	石本 祐一 (Ishimoto Yuichi) (50409786)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・ コーパス開発センター・特任助教  (62618)	
研究分担者	居關 友里子 (Iseki Yuriko) (70780500)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音 声言語研究領域・プロジェクト非常勤研究員  (62618)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	坂井田 瑠衣 (Sakaida Rui)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	門田 圭祐  (Kadota Keisuke)		
研究協力者	若松 史恵  (Wakamatsu Fumie)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 EIL2019 & LCI-7 Joint International Symposium: Embodied Interaction and Linguistics 2019 & Language, Cognition, and Interaction 7	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 LREC2018 Workshop: Language and Body in Real-Life	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------